

科目名	知覚・認知心理学2			ナンバリング	PSY243	授業形態	講義
対象学年	2 年	開講時期	後期	科目分類	選択	単位数	2 単位
代表教員	高島翠	担当教員					

授業の概要	本講義では、知覚・認知心理学の分野から、さまざまな視覚現象や、視覚による情報の伝達に関わる現象を取り上げる。我々は、ものを“見る”ことを当たり前のように行っているため、そこに疑問を感じることは少ない。しかし、視覚システムの特徴を知るとは、外界をどのように見ているのかを理解し、ひいては我々が環境に対してどのように適応していくのかを考える基礎的な材料となる。本講義では、当たり前のことに疑問を感じることからスタートし、日常生活における我々ヒトの視知覚の特徴の理解を目的とする。						
到達目標	授業で紹介する現象を通して、われわれが環境をどのように認識していくのか、人間の視知覚の過程を理解することを目標とする。図と地・群化・3次元の知覚・色の知覚・かたちの知覚・空間や色・かたちの象徴などの基礎的な視覚システムを理解したうえで、これらの基礎知識をもとに「見やすい」情報のデザインの特徴を修得する。さらに知覚・認知のさまざまな現象を日常生活において常に体験していることを自覚し、自身の体験内容を自身の言葉で説明できることを目指す。						
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な 予備知識など)							
ディプロマポリシーとの 関連	【教養学部 地域教養学科のディプロマポリシー】						
	○	1. 専攻分野それぞれの基礎的な知識を確実に身につけ、それらを活用して基本的な問題を解決することができる。					
	○	2. 専攻分野それぞれの基本的スキルを、地域社会に貢献するために活用することができる。					
		3. 自分の意見や考えを説明し、他者と協調して積極的にコミュニケーションをとることができる。					
		4. 広い視野と論理的・批判的思考力を身につけ、困難な課題や予測不能な事態に直面しても適切に対処することができる。					
		5. 社会の一員としての自覚を持ち、社会生活の場において、地域を支える社会人・職業人としてふさわし関心・意欲・態度を示すことができる。					

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
①図と地や視覚体制化の諸法則などの現象について説明することができる。 ②色の表し方について、具体的な値を用いて説明することができる。 ③かたちの知覚に関わる現象について説明することができる。 ④より良い情報のデザインを提案するために必要なポイントを理解することができる。	①図と地や視覚体制化の諸法則などが、われわれの日常生活における視知覚の現象とどのように関わっているのかと絡めて、説明することができる。 ②色と光の違いや、三原色がなぜその3つなのかを、自分の言葉で説明することができる。 ③かたちの知覚における輪郭の役割や、透明に見えるとはどのようなことなのかを、具体的な図を用いてその成立要因とあわせて説明することができる。 ④日常場面における文字に頼らない情報のデザインの問題点を指摘し、より良い情報のデザインを提案することができる。

成績評価観点 評価方法	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合
定期試験(中間・期末試験)							
小テスト・授業内レポート	○	○	○	○	○		70%
宿題・授業外レポート			○		○		20%
授業態度・授業への参加			○	○			10%

課題、評価のフィードバック	小テストの結果は、希望する学生にはコメントとして返却する
---------------	------------------------------

	回次	テーマ	授業内容	備考
授業計画	第1回	視知覚の基礎	遠刺激・近刺激・知覚像という表現を使って、外界を知るメカニズムについて説明する	
	第2回	図と地の成立	図地反転図形等の観察を通して、図と地にどのような特徴があるのか、説明する	
	第3回	視覚体制化の諸法則	視覚体制化の諸法則にどのようなものがあるのか、具体的な図をあげて説明する	
	第4回	3次元の成立1	2次元の近刺激から、どのように3次元の知覚像を獲得するのか、具体的な例を挙げながら説明する	
	第5回	3次元の成立2	多数の絵画作品の観察から、3次元空間成立の要因である遠近法について、説明する	
	第6回	小テスト	ここまでの現象に関するテストを実施する	
	第7回	運動の知覚	仮現運動、バイオロジカルモーションなど、運動の知覚に関わる現象を説明する	
	第8回	色の知覚	色と光の3原色および混色のメカニズムの違いについて、紹介する	
	第9回	かたちの知覚1	主観的輪郭・知覚的透明視・アモーダル知覚等のかたちの知覚に関わる現象がどのようなものか説明する	
	第10回	かたちの知覚2	かたちの知覚に関わる現象を用いて、図と地の成立、奥行の成立の特徴を説明する	
	第11回	空間の心理学	視覚における左右差あるいは左右対称性が、現象の知覚にどのような影響を与えるのか紹介する	
	第12回	小テスト	ここまでの現象に関するテストを実施する	
	第13回	情報の伝達	色や形が、文字を使わない情報の伝達にどのように有効にはたっているのかを説明する	
	第14回	情報のデザイン1	情報をスムーズに伝達するために、視覚体制化の諸法則などが実際にどのように利用されているのかを紹介する	
	第15回	情報のデザイン2	情報を伝達しやすいようなデザイン案を提案してもらう	
	試験	授業内にて実施する		
授業の進め方				
授業外学習の指示		【復習】(180分)授業のノートを参考に、自分で興味をもったことを自分の言葉で説明できるように復習する。 (授業外学習時間： 毎週 180 分)		

教科書	使用しない
参考書	必要に応じて紹介する
参考URLなど	
その他	